

DA
1984
1998
(19)

筑波大学一九九八年度博士論文
文芸・言語研究科

昭和文学の朝鮮体験

南 富鎮

寄	送
	年 月 日

99012299

目次

第1章	序論		
第1節	はじめに		1
第2節	昭和の作家と植民地空間		2
1	中島敦		2
2	金史良		4
3	湯浅克衛		5
4	田中英光と李石薰		5
5	張赫宙		6
第2章	中島敦文学と異郷としての朝鮮		1
第1節	中島敦の初期と浮遊する朝鮮人像		1
1	はじめに		1
2	「巡查の居る風景」		1
3	「プールの傍で」		1
4	「虎狩」		1
5	「北方行」		2
6	むすび		2
第2節	「虎狩」と△虎▽の死		2
1	はじめに		2
2	△虎▽の像		2
3	△虎狩▽の意味		2
第3章	金史良文学と植民地という制度		3
第1節	金史良文学と創氏改名		3
1	はじめに		3
2	創氏改名		3
3	「光の中に」と創氏改名		3
4	「天馬」の創氏改名と国語		4
5	「光冥」と創氏改名		5
6	「親方コブセ」と創氏改名		6
7	むすび		6
第2節	金史良文学に現れた白々教事件の影		6
1	はじめに		6
2	白々教事件		8

3	「草深し」と白々教事件	7
4	「草深し」前後作と白々教事件	7
5	むすび	8
第4章 湯浅克衛文学の植民地空間		
第1節 湯浅克衛文学と母胎としての水原		
1	はじめに	9
2	水原	9
3	「カンナニ」と水原	9
4	「焔の記録」と水原	10
5	異郷から故郷へ	11
6	むすび	11
第2節 湯浅克衛文学と心田開発		
1	はじめに	12
2	心田開発	12
3	「心田開発―朝鮮新風景」	12
4	「心田開発」とそれ以降	13
5	むすび	13
第5章 田中英光文学と牧洋という鏡		
1	はじめに	13
2	「碧空」と「嵐」	13
3	牧洋と「静かな嵐」	14
4	田中英光の「碧空」	15
5	むすび	15
第6章 張赫宙文学と近代の挫折		
1	はじめに	15
2	近代と反近代	16
3	「仁王洞時代」と前近代の終焉	16
4	「仁王洞時代」以降と近代の明暗	17
5	むすび	17
第7章 結論		
第1節 終わりに		
第2節 課題と展望		
1		8
8		7